

# 土佐のうまいもん と 地酒まつり in 椿山荘

## 竜馬が来た！日本酒ファン垂涎、高知県初の東京ビッグイベント



東京を舞台とした高知県酒造組合初のビッグイベント「土佐のうまいもん と地酒祭り」が、7月8日の午後6時半から東京都文京区の椿山荘で開催され、400名の日本酒ファンが土佐のグルメワールドをまるごと堪能。極上銘酒と珍味佳肴を引っさげて、竜馬が来た！



### 県と酒造組合が連携。希望者殺到で定員も大幅増

「これまで東京では内覧会などは開催してきましたが、今回のような大きなパーティは初めて。銀座にある県のアンテナショップ『まるごと高知』と相談して、どうせなら話題性のあるPR効果の大きい催しにしたいと計画を立てました」(高知県組合関係者の説明)

県下の蔵元 18社の銘酒と土佐の珍味佳肴をふんだんに詰め込んだ「土佐のうまいもん と地酒祭り」は、県と酒造組合の連携で実現した日本酒ファン垂涎のゼータクイベント(参加費6千円、イープラス利用者は5500円)。



大盛況の会場(着席制)



18蔵元そらい踏み

前評判も上々で、チケットの発売早々から希望者が殺到し「定員数を当初の250名から400名に大幅増員した」ほど。参加者は、各蔵自慢の日本酒はもちろん、世界初の土佐宇宙酒(宇宙を旅した高知酵母で醸した日本酒)やリキュール類なども含めて、今年の全国新酒鑑評会で金賞受賞率西日本一に輝いた酒造王国・高知の実力を味わい尽くしました。

## 土佐酒で乾杯！

オープニングでは、高知県酒造組合の竹村会長と 高知県地産外商公社の中澤一眞代表理事が、それぞれ「土佐の銘酒とうまいものを大いに飲んで食べて楽しんでください」「土佐の地酒と食材のよさを知ってほしい」と挨拶。続いて関係者揃って鏡開き（1頁）を行なった後、板原啓文土佐市長の発声で「土佐酒で乾杯！」。



乾杯の後は、いよいよ宴の時間(上の写真左から、高知県組合の竹村会長、高知県地産外商公社の中澤代表理事、板原土佐市長)

## 珍味佳肴の数々に目移り？

この日、地酒とともに参加者の舌と目を楽しませたのが、土佐の「うまいもん尽くし」。名産カツオのタタキや金目鯛の刺身、珍しいウツボのタタキ、はちきん地鶏の炭火焼きなどに加えて、様々なフルーツやスイーツ類に至るまで、珍味佳肴の数々に「東京ではめったに食べられない。目移りして困る」と、うれしい悲鳴の参加者も。



絶品カツオのタタキ(上段左端)や珍品ウツボのタタキ(同右端)、はちきん地鶏の炭火焼き(下段右端)など、土佐グルメの数々

## お酒は土佐人の誇りです

蔵元関係者との日本酒談義も楽しみのひとつ。時間が進むに連れ、会場は各蔵のブースで試飲と談笑を楽しむ参加者の喧騒に満ちあふれ、まさに宴たけなわの雰囲気。

「名前だけ知っていて飲んだことのないお酒が飲めて楽しかった。土佐料理もおいしかったし、いろいろと貴重な体験ができました」「高知県の出身です。今日は友だち2人を誘って参加しました。お酒は土佐人の誇り。なつかしい高知の味も楽しめたし、友だちにも自慢できてよかった」と、満足そうに感想を語る参加者の笑顔が印象に残るイベントでした。



楽しく盛り上がった一夜